

2019/6/20

柏の景気情報(2019年5月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2019年5月分)

○ 調査期間 : 2019年5月27日 ~ 2019年6月9日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	72	46.2%
建設	44	20	45.5%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	24	54.5%
サービス	35	14	40.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こ3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりという意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

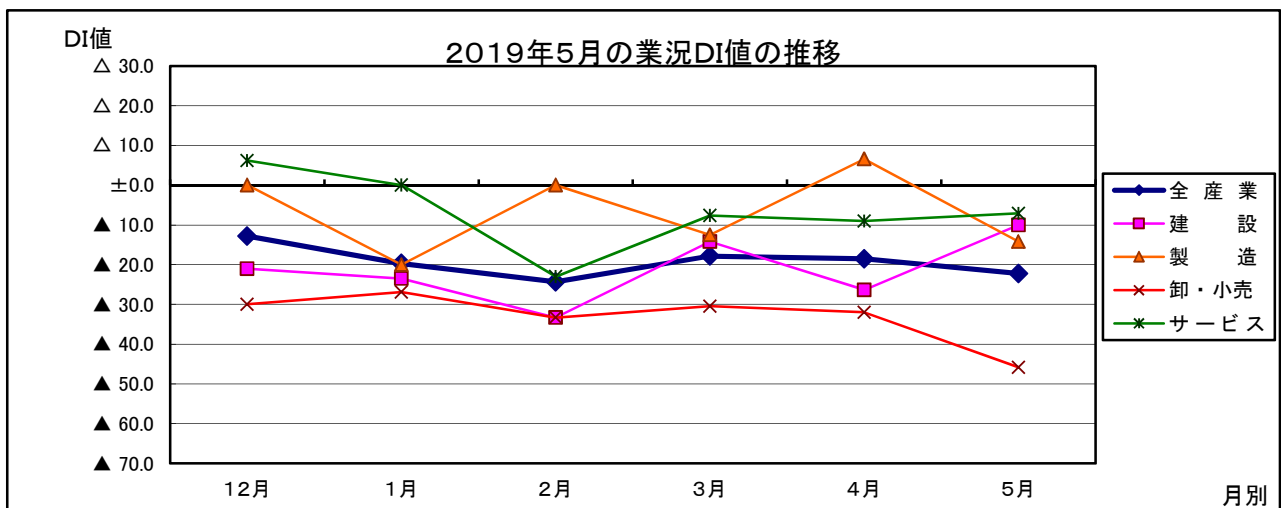
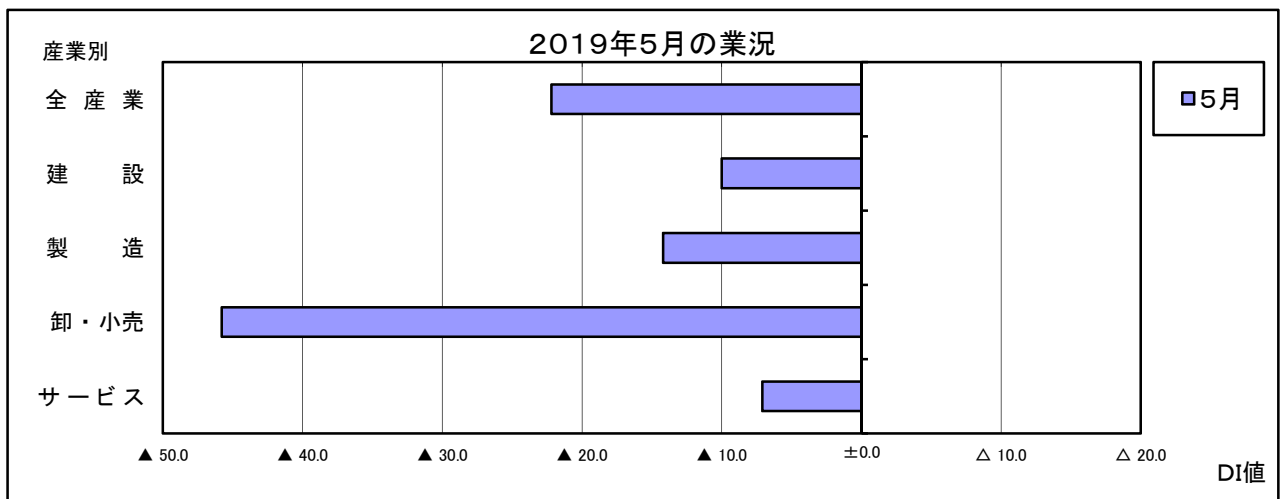
【2019年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が3.7ポイント拡大した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.0(同▲26.3)、サービス業▲7.1(同▲9.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲14.2(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.8(同▲32.0)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が11.6ポイント縮小する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△5.0(同▲21.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同▲18.1)、卸小売業▲20.8(同▲28.0)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。

2019年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	2018年 12月	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲12.8	▲19.7	▲24.3	▲17.8	▲18.5	▲22.2	▲6.9(▲18.5)
建設	▲21.0	▲23.5	▲33.3	▲14.2	▲26.3	▲10.0	△5.0(▲21.0)
製造	±0.0	▲20.0	±0.0	▲12.5	△6.6	▲14.2	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲30.0	▲26.9	▲33.3	▲30.4	▲32.0	▲45.8	▲20.8(▲28.0)
サービス	△6.2	±0.0	▲23.0	▲7.6	▲9.0	▲7.1	▲7.1(▲18.1)



【2019年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.6(前月水準▲21.4)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。

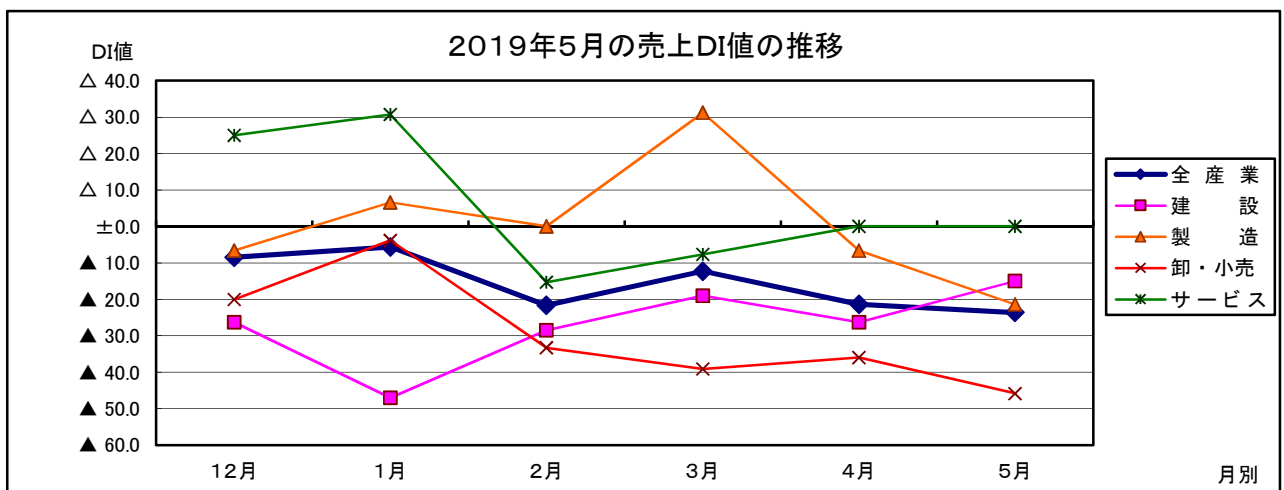
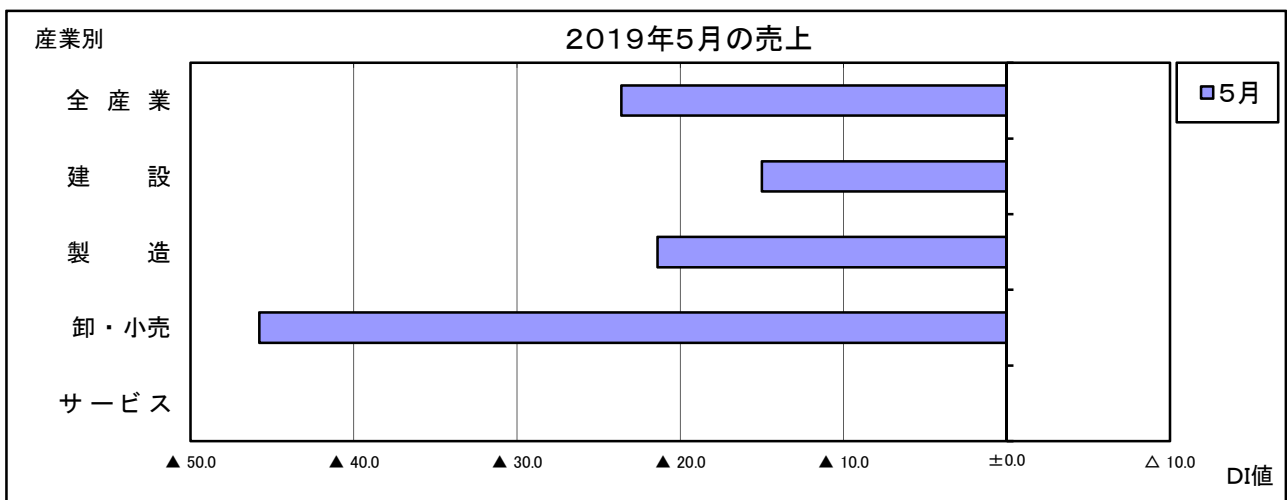
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲15.0(同▲26.3)である。変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同▲6.6)、卸小売業▲45.8(同▲36.0)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.5(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△7.1(同▲6.6)、建設業△5.0(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲16.6(同▲20.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲14.2(同△18.1)である。

2019年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2018年 12月	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲8.5	▲5.6	▲21.6	▲12.3	▲21.4	▲23.6	▲5.5(▲7.1)
建設	▲26.3	▲47.0	▲28.5	▲19.0	▲26.3	▲15.0	△5.0(▲5.2)
製造	▲6.6	△6.6	±0.0	△31.2	▲6.6	▲21.4	△7.1(▲6.6)
卸・小売	▲20.0	▲3.8	▲33.3	▲39.1	▲36.0	▲45.8	▲16.6(▲20.0)
サービス	△25.0	△30.7	▲15.3	▲7.6	±0.0	±0.0	▲14.2(△18.1)



【2019年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲27.1)となり、マイナス幅は2.1ポイント縮小した。

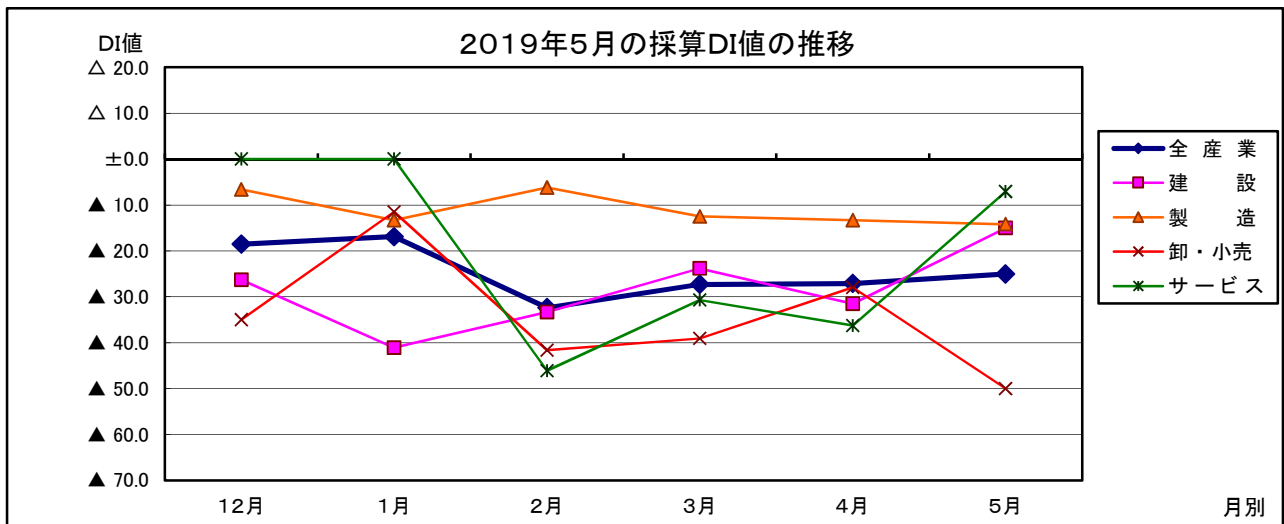
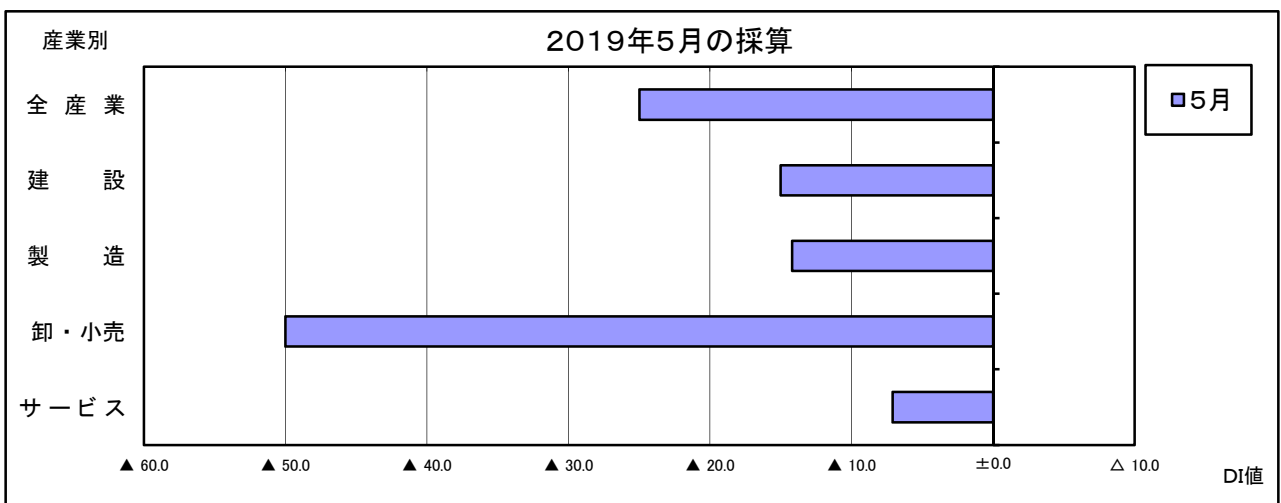
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同▲36.3)、建設業▲15.0(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲28.0)、製造業▲14.2(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.5(前月水準▲15.7)であり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△5.0(同▲15.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同±0.0)、卸小売業▲25.0(同▲24.0)である。

2019年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2018年 12月	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲18.5	▲16.9	▲32.4	▲27.3	▲27.1	▲25.0	▲12.5(▲15.7)
建設	▲26.3	▲41.1	▲33.3	▲23.8	▲31.5	▲15.0	△5.0(▲15.7)
製造	▲6.6	▲13.3	▲6.2	▲12.5	▲13.3	▲14.2	±0.0(▲13.3)
卸・小売	▲35.0	▲11.5	▲41.6	▲39.1	▲28.0	▲50.0	▲25.0(▲24.0)
サービス	±0.0	±0.0	▲46.1	▲30.7	▲36.3	▲7.1	▲28.5(±0.0)



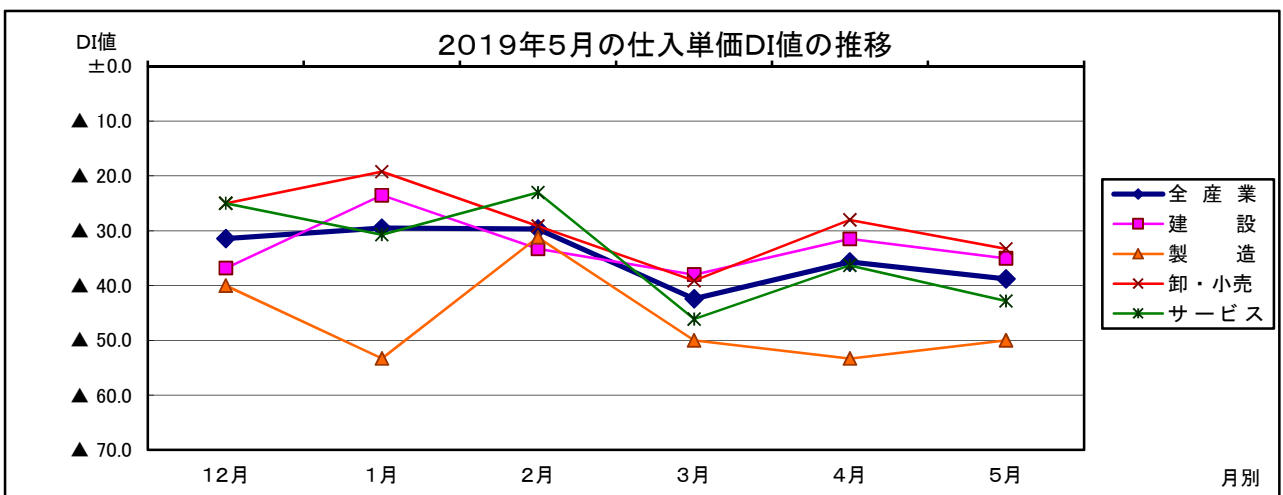
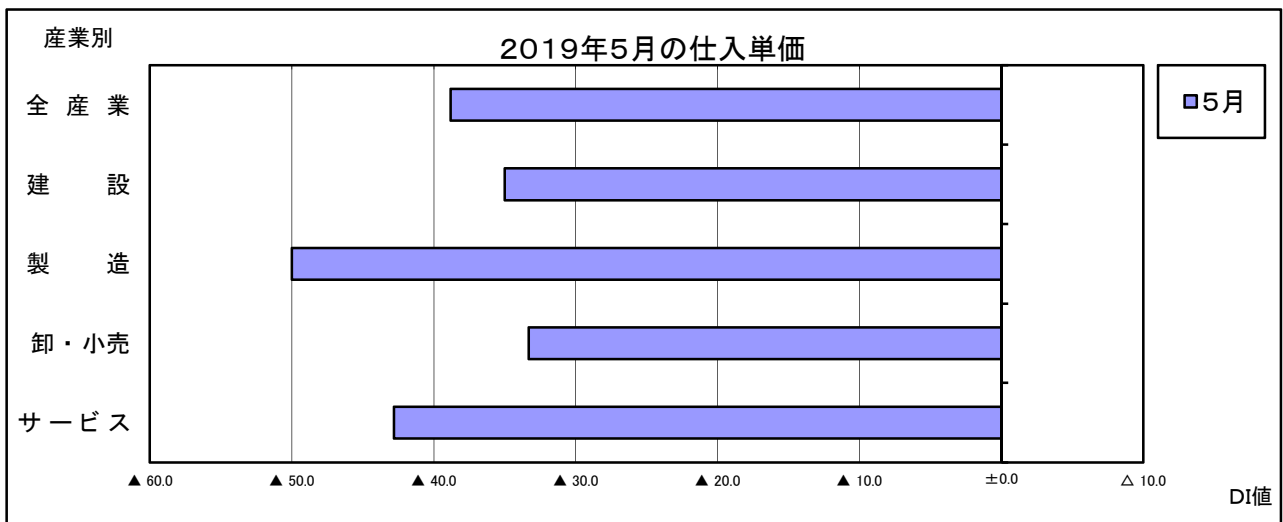
【2019年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.8(前月水準▲35.7)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲50.0(同▲53.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲36.3)、卸小売業▲33.3(同▲28.0)、建設業▲35.0(同▲31.5)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.1(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が4.9ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲25.0(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲18.1)、建設業▲30.0(同▲21.0)、製造業▲21.4(同▲20.0)である。

2019年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2018年 12月	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲31.4	▲29.5	▲29.7	▲42.4	▲35.7	▲38.8	▲29.1(▲24.2)
建設	▲36.8	▲23.5	▲33.3	▲38.0	▲31.5	▲35.0	▲30.0(▲21.0)
製造	▲40.0	▲53.3	▲31.2	▲50.0	▲53.3	▲50.0	▲21.4(▲20.0)
卸・小売	▲25.0	▲19.2	▲29.1	▲39.1	▲28.0	▲33.3	▲25.0(▲32.0)
サービス	▲25.0	▲30.7	▲23.0	▲46.1	▲36.3	▲42.8	▲42.8(▲18.1)



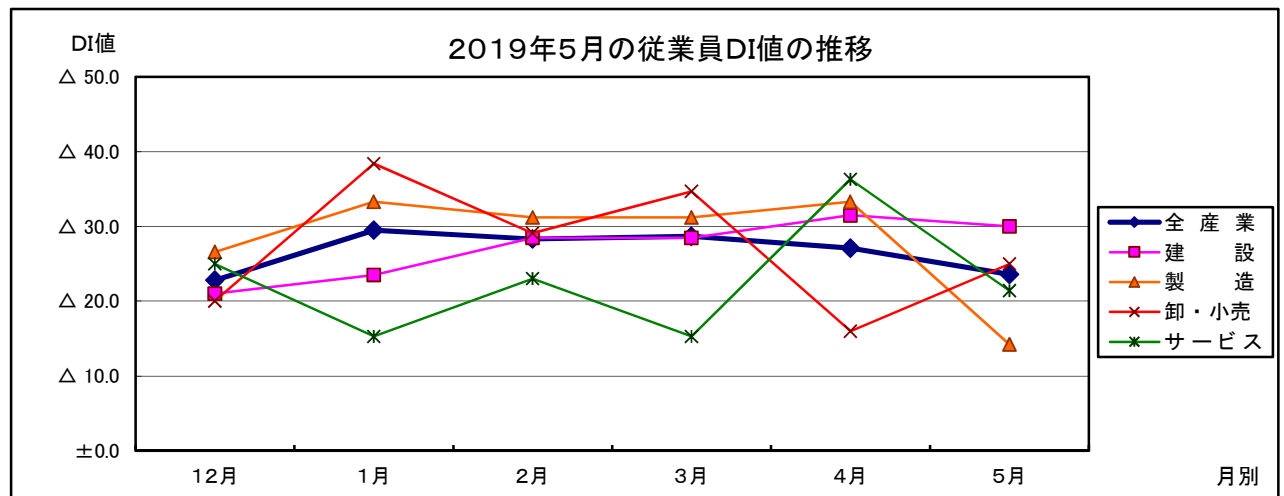
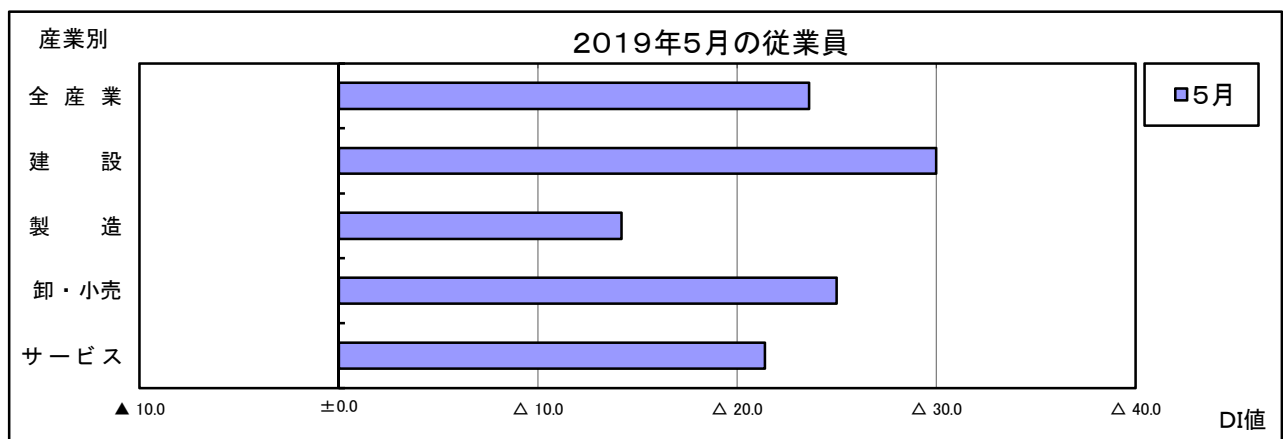
【2019年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△23.6(前月水準△27.1)となり、プラス幅が3.5ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△25.0(同△16.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△14.2(同△33.3)、サービス業△21.4(同△36.3)、建設業△30.0(同△31.5)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△26.3(前月水準△25.7)となり、プラス幅が0.6ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△16.6(同△12.0)、製造業△28.5(同△26.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△28.5(同△36.3)、建設業△35.0(同△36.8)である。

2019年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2018年 12月	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△ 22.8	△ 29.5	△ 28.3	△ 28.7	△ 27.1	△ 23.6	△ 26.3 (△ 25.7)
建設	△ 21.0	△ 23.5	△ 28.5	△ 28.5	△ 31.5	△ 30.0	△ 35.0 (△ 36.8)
製造	△ 26.6	△ 33.3	△ 31.2	△ 31.2	△ 33.3	△ 14.2	△ 28.5 (△ 26.6)
卸・小売	△ 20.0	△ 38.4	△ 29.1	△ 34.7	△ 16.0	△ 25.0	△ 16.6 (△ 12.0)
サービス	△ 25.0	△ 15.3	△ 23.0	△ 15.3	△ 36.3	△ 21.4	△ 28.5 (△ 36.3)



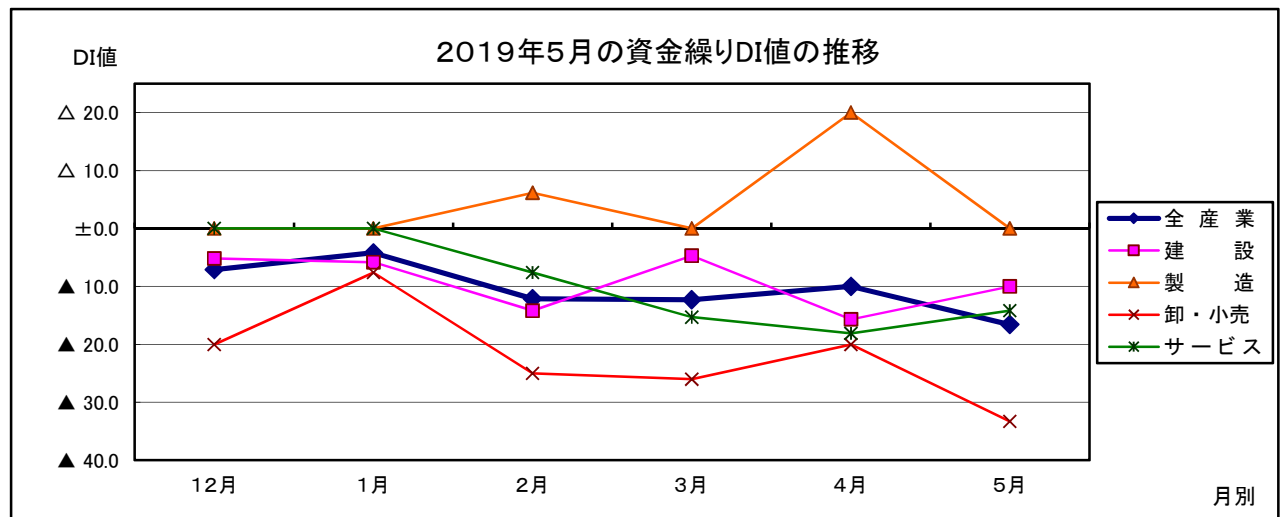
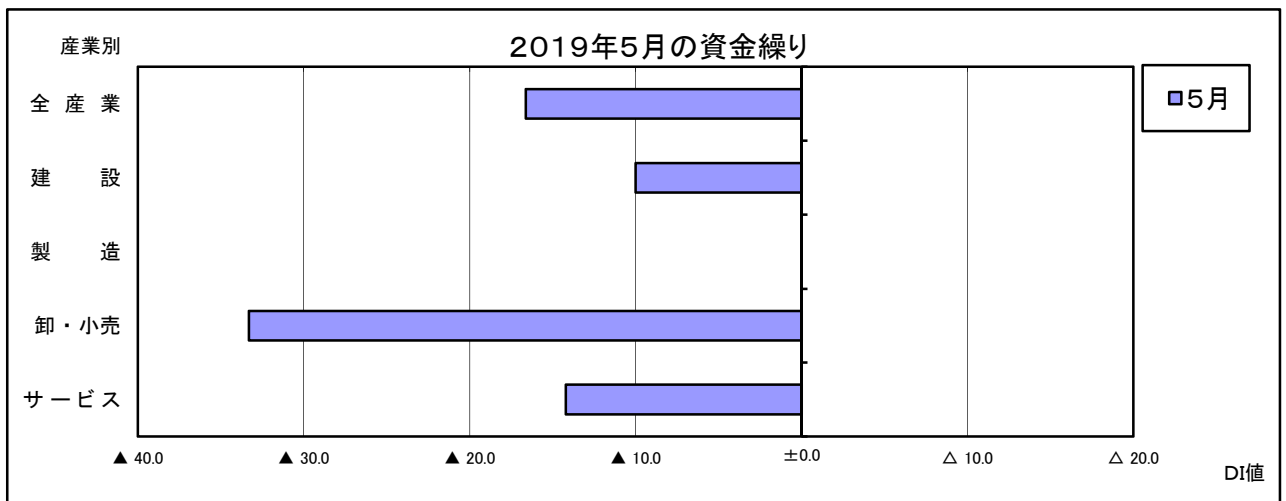
【2019年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.6(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が6.6ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.0(同▲15.7)、サービス業▲14.2(同▲18.1)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲33.3(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△10.0(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲28.0)である。変わらない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲9.0)である。

2019年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2018年 12月	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲7.1	▲4.2	▲12.1	▲12.3	▲10.0	▲16.6	▲6.9(▲12.8)
建設	▲5.2	▲5.8	▲14.2	▲4.7	▲15.7	▲10.0	△10.0(▲5.2)
製造	±0.0	±0.0	△6.2	±0.0	△20.0	±0.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲20.0	▲7.6	▲25.0	▲26.0	▲20.0	▲33.3	▲20.8(▲28.0)
サービス	±0.0	±0.0	▲7.6	▲15.3	▲18.1	▲14.2	▲14.2(▲9.0)



【2019年5月の調査結果のポイント】

≪全産業況DIは悪化。先行きは全産業で改善の見通し≫

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が3.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.0(同▲6.3)、サービス業▲7.1(同▲9.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲14.2(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.8(同▲32.0)である。

【建設業】からは、「財布の紐は固いが、共働きが増え、夫婦間での家事の分担、軽減等を理由にプチ贅沢品へは財布の紐が緩む傾向がある」(一般土木建築工事業)、「改元による影響を全く受けることなく売上増加。世の中のシステム関係者の方々に感謝！」(畳店製造小売業)、「景気上昇の実感はあまり無いが期待感あり。今までの状況から脱出できそうだ」(電気工事業)、「働き方改革で今後は仕事量、賃金が減少」(職別工事業)、「大型連休、休日の作業禁止、天候により稼働日数が減り大幅な売上減。材料等の仕入価格は落ち着いたものの、前年より施工単価の下落が続き、材料の単価を下げるよう仕入先に交渉中。前年から不況感があり、得意先、外注先に根回ししていたつもりだったが、業況の悪化は想像以上」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「景況の下向は2011年から続いている。この変化に応じた策はまだ見えない。働き方改革は生き方改革なのか考える」(印刷業)、「ハローワークに求人を出すとベトナム人の問い合わせばかり」(自動車付属品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「天候不順により品揃えが大変難しかった。春、夏の切替もなかなかうまくいわず微減が続いている」(婦人・子供服小売業)、「母の日は定番のプレゼントというより「コト」に移る傾向が増加。令和関連が好調」(各種商品小売業)、「母の日は昨年より売上減」(菓子・パン小売業)、「4、5月の長期で見ると不変だが、先行きは不安が沢山ある。暖冬の影響で農作物の生育が悪く、作量に不安」(食料・飲料卸売業)、「新規店舗オープンし順調に推移」(各種商品小売業)、「母の日は良かった。人不足は相変わらず」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「生活防衛の為に金額の安価な戸建てやマンションの取引は活況。また、高齢者の資産売却の引き合いが増加。法人の倉庫等の問い合わせも多くなっている」(不動産管理業)、「新しいインフォメーションセンターのコンセプトが分からない。単純に観光案内所ではいけないのか」(不動産賃貸業)、「今に始まった事ではないが、賃貸業におけるサブリース契約の不利益や、一部大手建設会社による建物の手抜き、不法工事の報道にこの業界のモラルの低さを感じる」(不動産賃貸・管理業)、「人手不足は慢性化しているが、生産性向上を狙うと誰でも良いわけではなく難しい」(ソフトウェア業)、「日米選挙期間に入る年、大きく沈む株価も再度出直すだろう。第4次産業革命の波動、AI、IOTが核となる世界に乗り遅れることなきを願う。国内景気は袋小路に入った感じ。少子高齢化の激変に先駆する経営感覚が企業を救う」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎大型連休の影響

「長期休暇により稼働日数が減り売上減少。休み明け直後の動きは良かったが、中旬より急な暑さもあって停滞した」(一般産業用機械・装置製造業)、「GWの人の流れが読み切れず、例年通りではなくチャンスロス発生」(各種商品小売業)、「GW明けの落ち込みが例年より増」(菓子・パン小売業)、「GW期間中、思うように売れていないようで、GW明けてからの注文が昨年より減少」(食料・飲料卸売業)、「大型10連休明けの消費動向は、例年に比べ著しく鈍化。大型連休での支出が影響したものとする。集客の伸びは維持しているものの、松戸伊勢丹閉店から1年が経過し売上はわずかに前年割れ」(百貨店)、「GW中の売上は予想より良かったが、連休後の売上が減少」(日本料理)、「連休が10日間あった為に来客数は減少」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎消費増税

「消費税増税前には静かすぎ。後が心配」(職別工事業)、「消費増税に関連した消費動向は現時点ではほとんど見られない。今後9月までは増税前の消費動向を見越した仕掛けにより売上高増加見込み」(百貨店)、「消費税増税に対する身構えは投資より蓄財に走る傾向」(投資顧問)、「消費税が上がる前に設備投資したいのだが、大きな買い物は避けたい気分だ」(印刷業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
見通し	▲6.9	△5.0	±0.0	▲20.8	▲7.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.6	▲ 5.5	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 38.8	▲ 29.1	△ 23.6	△ 26.3
建設	▲ 15.0	△ 5.0	▲ 15.0	△ 5.0	▲ 35.0	▲ 30.0	△ 30.0	△ 35.0
製造	▲ 21.4	△ 7.1	▲ 14.2	±0.0	▲ 50.0	▲ 21.4	△ 14.2	△ 28.5
卸・小売	▲ 45.8	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 25.0	△ 25.0	△ 16.6
サービス	±0.0	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 28.5	▲ 42.8	▲ 42.8	△ 21.4	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.2	▲ 6.9	▲ 16.6	▲ 6.9
建設	▲ 10.0	△ 5.0	▲ 10.0	△ 10.0
製造	▲ 14.2	±0.0	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 45.8	▲ 20.8	▲ 33.3	▲ 20.8
サービス	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 14.2

【2019年5月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	財布の紐は厳しいが、共働きが増え夫婦間での家事の分担、軽減等を理由にプレミアム消費(プチ贅沢品)へは財布の紐が緩む傾向があるようだ。	消費動向 プチ贅沢品	一般土木建築工事業
	改元による影響を全く受けることなく売上は増加。世の中のシステム関係者の方々に感謝！	改元の影響 売上増加	量店製造小売業
	景気上昇の実感はあまり無いが期待感はある。今までの状況から脱出できそうだ。	先行き期待感あり	電気工事業
	働き方改革で今後は仕事量、賃金が減少。消費税増税前には静かすぎ。後が心配。	働き方改革の影響 消費税増税	職別工事業
	大型連休、休日の作業禁止、天候により稼働日数が減り大幅な売上減となった。前年より施工単価の下落が続き、材料等の仕入価格は落ち着いたものの、施工単価が下がり続けている為、材料の単価を下げるように仕入先に交渉中。前年より不況感があり、得意先、外注先根回していたつもりだったが、業況の悪化は想像以上。	売上減少 施工単価下落 業況悪化	職別工事業
製造業	長期休暇により稼働日数が減り売上減少。休み明け直後は動きが良かったが、中旬より急な暑さもあって停滞した。	大型連休の影響	一般産業用機械・装置製造業
	景況の下向は2011年から続いている。この変化に応じた策はまだ見えてこない。働き方改革は生き方改革なのか考える。	景況感悪化 働き方改革	印刷業
	ハローワークに求人を出すとベトナム人の問い合わせばかり来てしまう。	人手不足	自動車付属品製造業
	消費税が上がる前に設備投資はしたいのだが、大きな買い物は避けたい気分だ。	消費税増税	印刷業
卸小売業	天候不順により品揃えが大変難しくなった。春、夏の切替もなかなかうまくいかず微減が続いている。	天候の影響	婦人・子供服小売業
	GWの人の流れが読み切れず、例年通りではなくチャンスロス発生。母の日は定番のプレゼントというより「コト」に移る傾向が増加。令和関連が好調。	大型連休の影響 改元の影響	各種商品小売業
	5、6、7月は例年と変化なし。	業況安定	書籍・文房具小売業
	GW明けの落ち込みが例年より増。母の日も昨年より売上減。	大型連休の影響	菓子・パン小売業
	GW期間中、思うように売れていないようでGW明けてからの注文が昨年を割っていた。4、5月の長期で見ると不変であったが、先行きは不安が沢山ある。農作物も暖冬の影響で生育が悪く、作量に不安を感じる。	大型連休の影響 先行き不安 天候の影響	食料・飲料卸売業
	新規店舗オープンし順調に推移。	売上順調	各種商品小売業
	5月は大型10連休明けの消費動向は例年に比べ、著しく著しく鈍化した。大型連休での支出が影響したものと考え。集客の伸び(前年比+2.0)は維持しているものの、松戸伊勢丹閉店から1年が経過し売上はわずかに前年割れ(前年比△0.6)。消費税増税に関連した消費動向は現時点ではほとんど見られない。今後9月までは増税前の消費動向を見越した仕掛けにより売上高増加見込み。	大型連休の影響 消費増税の影響	百貨店
母の日は良かった。人手不足は相変わらず。	人手不足	菓子・パン小売業	
サービス業	GWの長期連休中の売上は予想より良かったが、連休後の売上が減少。	大型連休の影響	日本料理
	連休が10日間あった為に来客数は減少。生活防衛の為に、金額の安価な戸建てやマンションの取引は活況。また、高齢者の資産売却の引き合いが増えている。法人の倉庫等の問い合わせも多い。	大型連休の影響	不動産管理業
	新しいインフォメーションセンターのコンセプトが分からない。単純に観光案内所ではいけないのか。	インフォメーションセンター	不動産賃貸業
	今に始まった事ではないが、賃貸業におけるサブリース契約の不利益や、一部大手建設会社による建物の手抜き、不法工事の報道にこの業界のモラルの低さを感じる。	不動産業界のモラル	不動産賃貸・管理業
	人手不足は慢性化しているが、生産性向上を狙うと誰でも良いわけではなく、難しい。	人手不足	ソフトウェア業
	トランプ政権「米国第一主義」の中国政策、知的財産権の窃取、技術移転、中国政策25補助金、国有企業の優遇措置等、解決は予断を辞さない。日米選挙期間に入る年、大きく沈む株価も再度出直すだろう。第4次産業革命の波動、AI、IOTが核となる世界に乗り遅れることなきを願う。国内景気も袋小路に入った感じ。消費税増税に対する身構えは投資より蓄財に走る傾向。少子高齢化の激変に先駆する経営感覚が企業を救う。株式は6月以降厳しい局面があるも、来年度のオリンピック、米国選挙の年大きなチャンスが訪れる。第4次産業革命企業で素晴らしい株式市場期待。一手先を読む経営に。消費税増税は延期(個人感)。	消費税増税	投資顧問

◎大型連休の影響

「長期休暇により稼働日数が減り売上減少。休み明け直後の動きは良かったが、中旬より急な暑さもあって停滞した」(一般産業用機械・装置製造業)、「GWの人の流れが読み切れず、例年通りではなくチャンスロス発生」(各種商品小売業)、「GW明けの落ち込みが例年より増」(菓子・パン小売業)、「GW期間中、思うように売れていないようで、GW明けてからの注文が昨年より減少」(食料・飲料卸売業)、「大型10連休明けの消費動向は、例年に比べ著しく鈍化。大型連休での支出が影響したものとする。集客の伸びは維持しているものの、松戸伊勢丹閉店から1年が経過し売上はわずかに前年割れ」(百貨店)、「GW中の売上は予想より良かったが、連休後の売上が減少」(日本料理)、「連休が10日間あった為に来客数は減少」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎消費増税





「消費税増税前には静かすぎ。後が心配」(職別工事業)、「消費増税に関連した消費動向は現時点ではほとんど見られない。今後9月までは増税前の消費動向を見越した仕掛けにより売上高増加見込み」(百貨店)、「消費税増税に対する身構えは投資より蓄財に走る傾向」(投資顧問)、「消費税が上がる前に設備投資したいのだが、大きな買い物は避けたい気分だ」(印刷業)との声が寄せられた。











2019年5月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.1で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲10.1で柏の方がマイナス幅が13.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.0に対し、「CCI-LOBO」が▲17.4で柏の方がマイナス幅が7.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.8に対し、「CCI-LOBO」が▲43.4で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△23.6に対し、「CCI-LOBO」が△25.1で柏の方がプラス幅が1.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.6に対し、「CCI-LOBO」が▲8.7で柏の方がマイナス幅が7.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上悪い。











2019年5月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.2	 ▲ 10.0	 ▲ 14.2	 ▲ 45.8	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 17.1	 ▲ 7.7	 ▲ 22.3	 ▲ 29.4	 ▲ 6.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.6	 ▲ 15.0	 ▲ 21.4	 ▲ 45.8	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.1	 ▲ 5.4	 ▲ 9.2	 ▲ 26.0	 ▲ 0.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.0	 ▲ 15.0	 ▲ 14.2	 ▲ 50.0	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 17.4	 ▲ 15.7	 ▲ 20.1	 ▲ 28.4	 ▲ 8.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 38.8	 ▲ 35.0	 ▲ 50.0	 ▲ 33.3	 ▲ 42.8
CCI-LOBO	 ▲ 43.4	 ▲ 46.6	 ▲ 48.6	 ▲ 37.1	 ▲ 41.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.6	 30.0	 14.2	 25.0	 21.4
CCI-LOBO	 25.1	 37.7	 15.1	 22.2	 32.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.6	 ▲ 10.0	 ±0.0	 ▲ 33.3	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 8.7	 ▲ 5.4	 ▲ 8.6	 ▲ 14.9	 ▲ 4.2

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：2019年5月16日～22日

調査対象：全国の337商工会議所が2657企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、横ばい続く。

先行きは、不透明感強く、慎重な見方変わらず

5月の全産業合計の業況DIは、▲17.1と、前月から▲0.4ポイントの悪化。10連休となったゴールデンウィークの好調なインバウンドを含む観光需要が

全体を牽引したほか、堅調な改元商戦の恩恵により、宿泊・飲食業や観光関連業を中心とするサービス業、小売業の業況感が改善した。他方、

半導体や産業用機械、自動車関連の不振が続いているほか、10連休により営業日が減少した建設業の売上が悪化した。深刻な人手不足の影響拡大や根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりが依然として中小企業の足かせとなっており、業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.6（今月比▲2.5ポイント）と悪化を見込む。個人消費の拡大やインバウンドを含む観光

需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原油価格を含む原材料費の上昇、コスト増

加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「案件はあるものの、職人などの人手不足は深刻であり、受注しきれない。原材料の仕入価格も上昇しており、収益の確保に苦戦している」(内装工事業)、「民間の大型工事を受注でき、売上は堅調。人手不足は相変わらずだが、時間外労働の抑制

や定年の延長などの働き方改革に取り組んでいる」(一般工業業)

【製造業】「半導体製造装置や工作機械部品の需要が低迷。新製品を受注したいが、残業時間の上限規制や人手不足の影響は大きく、踏み出せない」(金属製品製造業)、「改元の祝賀ムードもあり、連休は例年以上の繁忙期となり売上が大きく増加した。総菜や弁当に加え、帰省客の土産需要も追い風だった」(食料品製造業)

【卸売業】「花見シーズンと10連休が続いたため、観光地を中心に引き合いは好調で、売上は順調に伸びた。一方で、運送費の上昇に加え、消費税や新たな食品衛生管理制度(HACCP)導入に向けた対応を迫られており、負担も大きく収益がなかなか改善しない」(飲食料品卸売業)、「連休中は気温の低い日があり、期待していたほど春夏物の売上は伸びなかった。冬物から不振を引きずっているが、今後に期待している」(繊維品卸売業)

【小売業】「衣料品の不振は続いているものの、インバウンドの来店が多く、売上は増加した。化粧品や高額品の売れ行きが良く、10連休も好材料となった」(百貨店)、「消費者の節約志向は強く、客単価は下がっている。一方で改元に伴い、新元号の『令和』という文字を入れた和菓子を売り出したところ、好調な売れ行きだった」(食料品小売業)

【サービス業】「初の10連休となった今年のゴールデンウィークの対応に不安があったが、来店客数は大幅に増加し、嬉しい悲鳴となった。しかし、連休中は十分な従業員数を確保できず、対応しきれない客も出てしまった」(飲食業)、「改元に際しては、システム障害など特に大きなトラブルも起きず、無事に迎えることができた。10月の消費税引き上げに向けたシステム改修作業の依頼も多く、今後の対応を急ぎたい」(ソフトウェア業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲15.7	▲8.1	▲9.7	▲17.1	▲31.6	▲12.4
1月	▲16.0	▲6.3	▲12.0	▲17.9	▲36.3	▲8.6
2月	▲18.1	▲8.5	▲12.2	▲23.1	▲32.4	▲15.6
3月	▲16.9	▲5.8	▲16.6	▲22.4	▲29.5	▲11.7
4月	▲16.7	▲3.9	▲18.3	▲20.5	▲33.9	▲7.9
5月	▲17.1	▲7.7	▲22.3	▲19.8	▲29.4	▲6.7
見通し	▲19.6	▲11.8	▲22.5	▲24.3	▲29.4	▲11.6

柏の景気情報

(5月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年5月27日～6月9日

調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング、回答数72件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲12.8	▲21.0	± 0.0	▲30.0	△ 6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	± 0.0
2月	▲24.3	▲33.3	± 0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲ 7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△ 6.6	▲32.0	▲ 9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲ 7.1
見通し	▲ 6.9	△ 5.0	± 0.0	▲20.8	▲ 7.1

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の「業況」

全産業業況D Iは悪化。不透明感残るも、先行きは改善の見通し

5月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅が3.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.0(同▲26.3)、サービス業▲7.1(同▲9.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲14.2(同△6.6)である。マイナス幅が拡大し

た業種は、卸小売業▲45.8(同▲32.0)である。

建設業などのコメントが寄せられた。

【建設業】

からは、「財布の不順により品揃えが大変難しかった。春、夏の切替もなかなかうまくいかず微減が続いている」(婦人・子供服小売業)、「母の日は定番のプレゼントというより「コト」に移る傾向が増加。令和関連が好調」(各種商品小売業)、「母の日は昨年より売上減」(菓子・パン小売業)、「4、5月の長期で見ると不変だが、先行きは不安が沢山ある。暖冬の影響で農作物の生育が悪く、作量に不安さそうだ」(電気工事業)、「働き方改革で今後は仕事量、賃金が減少」(職別工事業)、「大型連休、休日の作業禁止、天候により稼働日数が減り大幅な売上減。材料等の仕入価格は落ち着いたものの、前年より施工単価の下落が続く、材料の単価を下げるよう仕入先に交渉中。前年から不況感があり、得意先、外注先に根回ししていたつもりだったが、業況の悪化は想像以上」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】

からは、「天候不順により品揃えが大変難しかった。春、夏の切替もなかなかうまくいかず微減が続いている」(婦人・子供服小売業)、「母の日は定番のプレゼントというより「コト」に移る傾向が増加。令和関連が好調」(各種商品小売業)、「母の日は昨年より売上減」(菓子・パン小売業)、「4、5月の長期で見ると不変だが、先行きは不安が沢山ある。暖冬の影響で農作物の生育が悪く、作量に不安さそうだ」(電気工事業)、「働き方改革で今後は仕事量、賃金が減少」(職別工事業)、「大型連休、休日の作業禁止、天候により稼働日数が減り大幅な売上減。材料等の仕入価格は落ち着いたものの、前年より施工単価の下落が続く、材料の単価を下げるよう仕入先に交渉中。前年から不況感があり、得意先、外注先に根回ししていたつもりだったが、業況の悪化は想像以上」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

「長期休暇により稼働日数が減り売上減少。休み明け直後の動きは良かったが、中旬より急な暑さもあって停滞した」(一般産業用機械・装置製造業)、「GWの人の流れが読み切れず、例年通りではなくチャンスロス発生」(各種商品小売業)、「GW明けの落ち込みが例年より増」(菓子・パン小売業)、「GW期間中、思うように売れていないようで、GW明けからの注文が昨年より減少」(食料・飲料卸売業)、「大型10連休明けの消費動向は、例年に比べ著しく鈍化。大型連休での支出が影響したものと考える。集客の伸びは維持しているものの、

5月の景気キーワード

①大型連休の影響

界のモラルの低さを感じる」(不動産賃貸・管理業)、「人手不足は慢性化しているが、生産性向上を狙うと誰でも良いわけではない(ソフ トウェア業)」、「日米選挙期間に入る年、大きく沈む株価も再度出直すだろう。第4次産業革命の波動、AI、IOTが核となる世界に乗り遅れることなきを願う。国内景気は袋小路に入った感じ。少子高齢化の激変に先駆する経営感覚が企業を救う」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎消費増税

「消費増税前にしては静かすぎ。後が心配」(職別工事業)、「消費増税に関連した消費動向は現時点ではほとんど見られない。今後9月までは増税前の消費動向を見越した仕掛けにより売上高増加見込み」(百貨店)、「消費増税に対する身構えは投資より蓄財に走る傾向」(投資顧問)、「消費税が上がる前に設備投資したいのだが、大きな買い物は避けたい気分だ」(印刷業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-TOBO」が▲17.1で柏の方が大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。

【製造業】からは、「景況の一向は2011年から続いている。この変化に応じた策はまだ見えない。働き方改革は生き方改革なのか考える」(印刷業)、「ハローワークに求人を出すとベトナム人の問い合わせばかり」(自動車付属品製